

2003

ごはん(食事)になるまでを学ぶ絵本の提案

Before We Become Your Food

AD04 石田 ひかる

指導教員 菅原 由佳, 氏家和彦

1. 研究目的

3年前に、「いのちのたべかた(OUR DAIRY BREAD)」という食と命に関する映画を観て、衝撃を受けた。この映画では、作物や動物が大量に生産され食品に加工される映像があり、ショッキングな反面、食と命について考えさせられた。また、コンビニやスーパーで買われる事なく大量に捨てられる食品を見ると、命を頂いているという感謝の気持ちを持つことの大切さを強く感じた。これらの経験をきっかけに、私たちが毎日生きているのは他の生き物の命を頂いているという事実をもっと早く誰もが知っておくべきであり、誰もが食に関心を持って命の尊さを知るべきだと考えた。そこで、小学生を対象に、食べ物に関する冊子を制作し、「ごはん(食事)」はどのようにできているのかを知ってもらう研究を進めることとした。

2. 調査と分析

現在発売されている本には、学校給食がどんな人によって作られるか、その工程を掲載した本や自然界の食物連鎖を記した絵本があり、個別の食材を扱っているものはあるが、毎日食べている全体を紹介している本はなかった。そこで今回は、一食分のごはんやお味噌汁に入っている豆腐やわかめがどのように生産されるのかなどをまとめて学べるツールを制作する。

3. コンセプトの立案

食べることは生きるための基本であり、子どもの健やかな心と身体の発達に欠かせないものである。そのため、制作する冊子のコンセプトを「わかりやすく・親しみやすく」に設定し、小学生にもわかりやすく伝えることを目標とした。具体的には、イラストを使った表現方法で食と命の関係を知らえるような「わかりやすく・親しみやすい」冊子を制作する。

4. デザイン展開

親しみやすくするために、手描きのイラストを中心にし、さらにキャラクターを活用することとした。読者と同じ年齢層の主人公と食べ物のことなら何でも知っているお米のキャラクターを使用して、毎日食べている食卓のごはんがどのくらいの手間をかけて作られているかを紹介するようにした。また、読者の食に対する関心を高めるためにその食べ物につ

いての豆知識や栄養素についても触れる。



図1. キャラクター(左)のりくん(右)よね米くん

5. 完成図



図2. 表紙及び見開きページ例

6. 結論

制作した絵本を小学校に持って行き小学生と教師数人に意見を頂くことを検討している。小学生を対象としたコンセプト「わかりやすく・親しみやすく」はイラストとキャラクターを活用したため、おおむね達成できると考える。また、手書イラスト単体では「あたたかみがあって、親しみやすい」という評価を頂いたので、小学生に対しても効果的だったと考える。今後の課題としては、よりわかりやすいように4コマ漫画などその他の表現方法を考え、採用するなどの工夫も考えられる。

文献

- [1] 厚生労働省, “食を通じて子どもの健全育成のあり方に関する検討会”, <http://www.mhlw.go.jp/shingi/2004/02/s0219-3.html>
- [2] “食の栄養 食材の栄養 医学・健康情報サイト” <http://www.j-medical.net/food.html>
- [3] “大豆ができるまで/JA むなかた” https://www.ja-munakata.or.jp/eat/until_soy.html
- [4] “サーモンミュージアム” <http://www.food.maruha-nichiro.co.jp/salmon/environment/>
- [5] “ピカピカ白米/米 LIFE ISEKE” <http://www.iseki.co.jp>